

一人ひとりの未来を、
協力しあって創っていく

信州大学グリーン社会協創機構

(Shinshu Sustainability Transformation Initiative) は、
気候変動と自然災害の増加に対応し、
環境への配慮と安全な暮らしを目指しています。

私たちのミッションは、地域、社会、個人が一体となり、
持続可能な未来を築くための取り組みを
推進することです。



グリーン社会協創機構は

「環境」と「災害」とが関係しあっているものとして同時に考え、
環境に対していいことをすることも、災害に備えることも、両方を推進していきます。



環境マインド
推進センター

- 人材育成推進部門
- 研究・開発推進部門
- 地域 CN 推進部門

※CN: カーボン・ニュートラル



地域・社会
との協創



地域防災
減災センター

- 防災減災教育部門
- 防災減災研究部門
- 地域連携部門
- 医療支援部門



グリーン社会協創機構



世界・地球の持続可能性へ



Cogitation

思い立った背景

オゾンホールが発見

1985年、科学者らによってオゾン層の穴（オゾンホール）が発見されました。オゾン層をわたしたち人類が傷つけてしまっていたのです。オゾン層とは地球を取り巻く大気のさらに外側にある薄い層で、太陽から降り注ぐ大半の紫外線を吸収してくれています。このオゾン層が無くなってしまったら、大量に紫外線が地上に届くようになって、生物のDNAを傷つけたり、ひどい日焼けをして皮膚がんになったりして、人類にとって、地球上の生物にとって大きなリスクが考えられます。

国際的に進んだオゾン層回復への取り組み

一説によるとオゾン層の破壊は1970年代に始まったようですが、破壊が発見された2年後の1987年にオゾン層を破壊していた有害化学物質の使用をやめようという国際合意がなされました（モントリオール議定書）。

オゾン層破壊の原因は冷蔵庫やエアコンなどの家電製品やスプレー缶で扱われるクロロフルオロカーボンとされました。モントリオール議定書はこの使用を規制したのです。

地球規模の協力が大きな成果へ

これによってオゾン層の回復が最近確認され、2066年までにはすべて回復か…とも言われています。

なぜ、こんな将来に希望を持てるニュースが聞けたのでしょうか？

世界中でこのオゾン層を壊してしまう原因のものの使用をやめようとみんなで頑張ったんです。

地球規模でみんなで力を合わせて一つのゴールに向かうとこんな風に大きな成果が得られるんですね。



Message

機構長からのご挨拶

近年地球レベルで温暖化が進み、人々は過去に産業発展を最優先にしてきた代償を償わなければ、大切な次の世代の人々に安心して過ごせる大地を引き継ぐことが出来ないと気づき始めました。

こうしてサステナビリティ、ESG（Environment= 環境、Society= 社会、Governance= ガバナンス）、SDG's（Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標）という言葉が掲げ、世界中の人々の意思を同じ方向に向け、一人では出来ない地球環境の再生を図ろうという動きが加速しています。

信州大学は自然環境の保全を理念に掲げ、地域貢献に積極的に取り組み、2001年には国公立大学及び大学院として初めて環境マネジメントシステムの国際認証規格であるISO14001の認証を取得しました。

そして2022年4月、「地域・社会との連携の下、（略）環境問題及び社会問題を解決し、安全・安心な地域づくり及び持続可能な社会の実現に寄与する」との目的で「グリーン社会協創機構」を立ち上げました。本機構は「環境保全活動と防災活動は表裏一体である」との発想のもと、これまで環境問題の教育・研究を行ってきた組織と、防災減災問題の教育・研究を行ってきた組織を統合して発足した点に大きな特徴があります。

長野県は二酸化炭素を含む温室効果ガス正味排出量を2030年度に6割減（2010年比）、2050年度にゼロを目指しています。本機構は様々な取り組みを通じてこの目標達成に資するべく活動を続けて参りたいと考えています。

どうぞご期待ください。

信州大学 グリーン社会協創機構 機構長 藤澤 晃

お問い合わせ先

信州大学 グリーン社会協創機構（SSXI）

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 TEL：0263-37-2146

email：ssxi@shinshu-u.ac.jp

URL：https://ssxi.shinshu-u.ac.jp/

グリーン社会協創機構

検索